

平成30年度静岡病院決算について

1 主な診療実績

○患者数

入院	30年度実績	29年度実績	増減
延患者数	167,789人	162,928人	4,861人
1日平均患者数	460人	446人	14人
新患者数	12,767人	12,378人	389人

外来	30年度実績	29年度実績	増減
延患者数	279,826人	277,006人	2,820人
1日平均患者数	1,147人	1,135人	12人
新患者数	24,699人	24,495人	204人

○稼働状況等

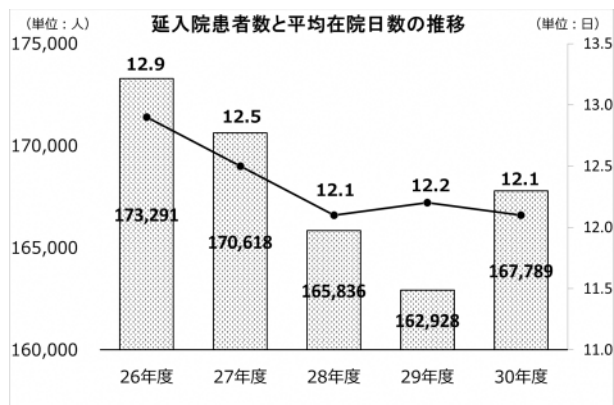
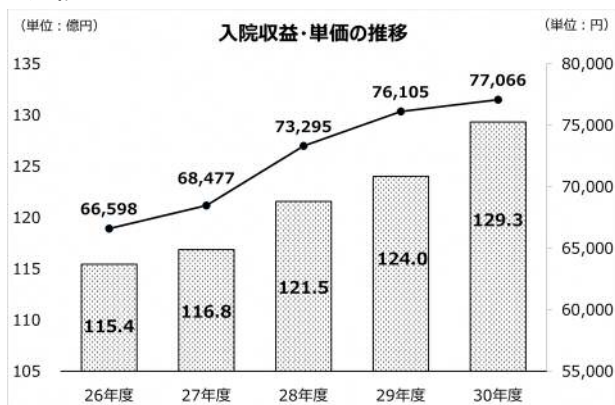
区分	30年度実績	29年度実績	増減
病床利用率	90.8%	89.3%	1.5P
平均在院日数	12.1日	12.2日	△ 0.1日
手術件数	5,153件	5,055件	98件
紹介率	77.2%	76.5%	0.7P
逆紹介率	115.0%	103.5%	11.5P

○経営指標

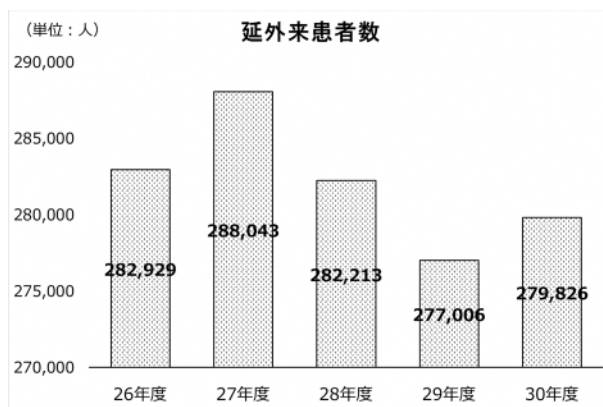
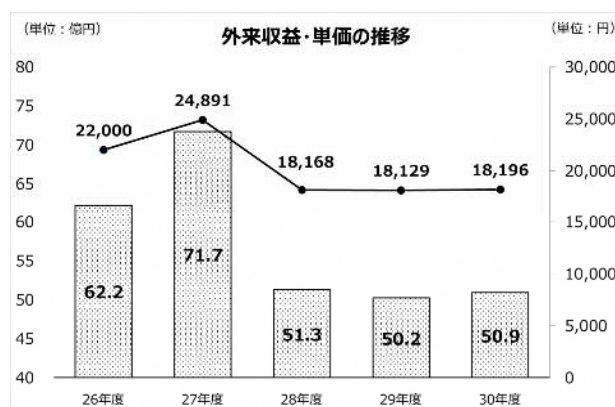
区分	30年度実績	29年度実績	増減
入院単価	77,066円	76,105円	961円
外来単価	18,196円	18,129円	67円
総収支比率	100.3%	99.0%	1.3P
経常収支比率	100.3%	99.0%	1.3P
医業収支比率	97.5%	95.7%	1.8P
給与費比率	47.5%	48.1%	△ 0.6P
材料費比率	31.0%	31.3%	△ 0.3P
経費比率	16.7%	17.0%	△ 0.3P
減価償却費比率	7.0%	7.7%	△ 0.7P

2 患者動向等について

○入院



○外来



3 平成30年度決算概要について（財務諸表）

平成30年度の決算は、総収益201億71百万円に対し、総費用は201億5百万円であった。

収益については、前年度に比べ、医業収益は延患者数の増加や新たな施設基準取得等による診療単価の上昇を図った結果、5億91百万円増の183億96百万円となり、そのうち入院収益は、5億31百万円増の129億31百万円、外来収益は70百万円増の50億92百万円となった。

費用については、前年度に比べ、医業費用及び一般管理費をあわせた給与費は、給与改定や看護体制維持に必要な看護師の増加等により、1億65百万円増の90億94百万円となった。

また、材料費は高額診療材料の使用増により、1億27百万円増の57億1百万円、減価償却費は償却対象となる資産数の減少により、81百万円減の12億94百万円となった。

第1期中期計画期間の最終年度となる平成30年度の当期純利益は、前年度に比べ、2億61百万円増の66百万円の黒字となった。

(1) 損益計算書の概要

一会計期間（4月1日から翌年3月31日までの1年間）に属するすべての収益と費用を記載した法人の経営成績を明らかにしたものです。

(単位: 百万円)

項目	平成30年度①	平成29年度②	増減額①-②	主な増減理由
総収益	20,171	19,683	488	
営業収益	19,933	19,455	478	
医業収益	18,396	17,805	591	
入院収益	12,931	12,400	531	延患者数: +4,861人(30年度:167,789人 29年度:162,928人) 単価: +961円(30年度:77,066円 29年度:76,105円) 病床利用率: +1.5P(30年度:90.8% 29年度89.3%)
外来収益	5,092	5,022	70	延患者数: +2,820人(30年度:279,826人 29年度:277,006人) 単価: +67円(30年度18,196円 29年度18,129円)
その他医業収益	415	428	△ 13	※室料差額収益、文書料、健診料
保険等査定減	△ 41	△ 45	3	
運営費負担金収益	1,483	1,587	△ 104	中期計画どおり
補助金等収益	40	37	2	
寄附金収益	1	1	0	
資産見返戻入	13	25	△ 12	※負担金等財源取得資産の減価償却費見合い分収益計上
営業外収益	238	228	10	
運営費負担金収益	69	78	△ 9	中期計画どおり
財務収益	1	2	△ 1	※預金利息
その他営業外収益	167	147	20	※売店・食堂等の目的外使用料、駐車場使用料
臨時利益	0	0	0	
その他臨時利益	0	0	0	
総費用	20,105	19,878	227	
営業費用	19,256	19,022	234	
医業費用	18,859	18,606	254	
給与費	8,731	8,559	172	正職員(再任用含む)の増員による給料・手当・賞与・法定福利費等の増加 全体+6人(30年度末:858人 29年度末:852人) (内訳) 医師:△3人(30年度末:150人 29年度末:153人) 看護師+15人(30年度末:492人 29年度末:477人) 薬剤師△1人(30年度末:35人 29年度末:36人) コメディカル±0人(30年度末118人 29年度末118人) 事務△5人(30年度末:63人 29年度末:68人)
材料費	5,701	5,574	127	診療材料費+154百万円(30年度2,867百万円 29年度2,713百万円) 保険請求可能な診療材料の増加) 薬品費△46百万円(30年度2,786百万円 29年度2,832百万円) 医療消耗備品費+17百万円(30年度32百万円 29年度15百万円)
減価償却費	1,290	1,371	△ 81	償却対象件数の減少
経費	3,069	3,030	38	委託料+32百万円(遠隔診断+23、医事業務+23、医療補助業務△10、ほか)、光熱水費+32百万円、賃借料+28百万円、消耗備品費+7百万円 報償費△30百万円、修繕費△34百万円
研究研修費	69	72	△ 3	
一般管理費	397	417	△ 20	
給与費	363	371	△ 7	
減価償却費	4	5	△ 1	
経費	29	42	△ 12	
営業外費用	848	851	△ 3	
財務費用	133	149	△ 16	※支払利息(移行前地方債・長期借入金)、リース利息
消費税	704	701	3	※控除外対象消費税
雑損失	11	1	10	※賠償金
臨時損失	0	4	△ 4	
固定資産除却損	0	0	0	
その他臨時損失	0	4	△ 4	29年度:退職給付会計基準改正に伴う調整額4百万円
当期純利益(29年度は当期総損失)	66	△ 195	261	

(注) 表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計が及び増減額が一致しない場合があります。

(2) 貸借対照表の概要

決算日（3月31日時点）におけるすべての資産（資金の運用形態）、負債及び純資産（資金の調達方法）を記載した法人の財政状況を明らかにしたものです。

（単位：百万円）

項目	平成30年度末①	平成29年度末②	増減額①-②	主な増減理由
資産の部	18,891	19,521	△ 630	
固定資産	11,532	12,441	△ 909	
土地	3,001	3,001	0	
建物	6,118	6,485	△ 367	東館・西館等減価償却による減少
構築物	13	18	△ 5	オイルタンク等減価償却による減少
器械備品	1,605	1,951	△ 346	医療機器・庁用器具等減価償却による減少
車両	0	1	△ 1	
リース資産	288	499	△ 210	電子カルテ・ネットワーク機器等減価償却による減少
建設仮勘定	14	12	2	
電話加入権	0	0	0	
長期貸付金	488	471	17	看護師修学資金貸付金の増加
破産更生債権等	69	74	△ 6	
貸倒引当金(破産更生債権等)	△ 69	△ 74	6	
その他投資	4	4	0	※借上げ住宅敷金
流動資産	7,360	7,080	279	
現金及び預金	3,897	3,646	251	※(3)キャッシュ・フロー計算書参照
未収金	3,212	3,226	△ 14	外来分の国保・社保請求2・3月分の減少
貸倒引当金	△ 43	△ 39	△ 4	
医薬品	146	114	33	H29年度：薬価改定のため在庫を少なくしたため減少 H30年度：高額薬剤の増加
診療材料	119	117	1	
前払金	26	13	13	東5血管撮影室工事分の増加
その他流動資産	2	3	△ 1	※火災保険前払分、預金利息未収分
負債の部	13,652	14,348	△ 696	
固定負債	11,095	11,650	△ 555	
資産見返負債	158	153	5	
長期借入金	540	420	120	医療機器購入のための借入による増加
移行前地方債償還債務	5,648	6,008	△ 361	既往債の償還が進んだことによる減少
引当金	4,665	4,756	△ 91	退職給付引当金の減少
リース債務	84	311	△ 227	リース支払が進んだことによる減少
流動負債	2,557	2,699	△ 141	
一年以内返済予定長期借入金	180	120	60	医療機器購入のための借入による増加
一年以内返済予定移行前地方債償還債務	361	432	△ 71	既往債の償還が進んだことによる減少
未払金	1,188	1,336	△ 148	医療器械支払分の減少
未払費用	82	76	5	
引当金	416	392	25	賞与引当金の増加
一年内支払予定リース債務	227	227	△ 0	
その他流動負債	103	115	12	※預り諸税、預り納付金
純資産の部	5,239	5,173	66	
資本金	4,919	4,919	0	※静岡市出資金
資本剰余金	0	0	0	
利益剰余金	320	253	66	
目的積立金	253	448	△ 195	H29年度損失を補填するため目的積立金を取崩したことによる減少
積立金	0	0	0	
当期末処分利益	66	△ 195	129	※平成29年度は当期末処理損失
うち当期純利益	66	△ 195	129	※平成29年度は当期純損失

（注）表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(3) キャッシュ・フロー計算書の概要

一会計期間（4月1日から翌年3月31日までの1年間）における業務活動、投資活動及び財務活動の3つの区分に分けて資金の流れを明らかにしたもので、現金と普通預金の動きを示しています。

(単位:百万円)

項目	平成30年度①	平成29年度②	増減①-②	主な増減理由
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,387	1,311	76	
材料の購入による支出	△ 6,205	△ 5,973	△ 232	診療材料支払額の増加による
人件費支出	△ 9,161	△ 8,855	△ 306	給料等支払額の増加による
その他の業務活動による支出	△ 3,308	△ 3,287	△ 22	
医業収入	18,441	17,718	723	医業収益は増加による
運営費負担金収入	1,552	1,665	△ 113	中期計画どおり
補助金等収入	39	38	1	
寄附金収入	1	1	0	
その他の業務活動による収入	161	151	9	
利息及び配当金の受取額	2	2	0	
利息の支払額	△ 133	△ 150	16	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 357	△ 2,118	1,761	
定期預金の戻入による収入	4,400	3,500	900	
定期預金の預入による支出	△ 4,100	△ 4,800	700	
有形固定資産の取得による支出	△ 555	△ 704	148	固定資産取得額減少による
貸付金の回収による収入	28	38	△ 10	
貸付による支出	△ 130	△ 152	22	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 479	△ 617	138	
長期借入れによる収入	300	300	0	
長期借入金の返済による支出	△ 120	△ 60	△ 60	平成28・29年度借入分の返済による増加
移行前地方債償還債務の償還による支出	△ 432	△ 630	198	既往債の償還額が減少したことによる
リース債務の返済による支出	△ 228	△ 227	△ 0	
資金増加額	551	△ 1,424	1,975	
資金期首残高	346	1,771	△ 1,425	
資金期末残高	897	346	551	

(注1) 期首及び期末時点で運用中の定期預金は、資金に含んでおりません。

(注2) 表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計が及び増減額が一致しない場合があります。

定期預金含む資金残高

(単位:百万円)

区分	平成30年度①	平成29年度②	増減①-②
資金期末残高	897	346	551
定期預金	3,000	3,300	△ 300
合計額	3,897	3,646	251

(注) 合計額は貸借対照表「資産の部」の「現金及び預金」の金額と一致します。

(4) 長期借入金及び移行前地方債償還債務の状況

長期借入金（市からの借入金）及び移行前地方債償還債務（地方独立行政法人移行前に借り入れた地方債の償還債務）の状況は次のとおりです。

(単位:千円)

区分	期首残高 (H30.4.1)	増減額			期末残高 (H31.3.31)	備考
		新規借入額 (A)	償還額(B)	計(A)-(B)		
長期借入金	540,000	300,000	120,000	180,000	720,000	医療機器整備
移行前地方債償還債務	6,440,415	0	431,941	△ 431,941	6,008,474	建設改良資金
計	6,980,415	300,000	551,941	△ 251,941	6,728,474	